

第3期第7回川崎市多文化共生社会推進協議会 会議録（摘録）

会議名	第3期第7回川崎市多文化共生社会推進協議会
日 時	令和7（2025）年7月28日（月） 15時～17時
場 所	本庁舎306会議室
出席した者の氏名	<p>委 員 (1) 大西 楠 テア 委員 (2) 小ヶ谷 千穂 委員 (3) 孔 敏淑 委員 (4) 南 昭子 委員 (5) 本田 量久 委員</p>
欠席した者の氏名	
議事及び公開・非公開の別	<p>議題（公開） 1 開会（公開） 2 本日の日程、資料確認（公開） 3 指針に基づく施策の実施状況について（公開） 4 施策の検証・評価⑤：総括（公開） 5 その他（公開） 6 閉会（公開）</p>
傍聴者	0名
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・座席表 ・委員名簿 ・資料1 川崎市多文化共生社会推進協議会（第3期）審議計画（案） ・資料2 川崎市多文化共生社会推進指針に基づく施策の実施状況（2024（令和6）年度及び推進計画一覧（2025（令和7）年度 ・資料3 第3期報告書フォーマット（最新版） ・資料4 地域日本語教育の推進に関する部会資料 ・第3期第6回川崎市多文化共生社会推進協議会会議録（摘録）

1 開会

○小出課長（会議の成立、会議の公開について説明）

2 本日の日程、資料確認

○三田村課長補佐（日程説明、資料確認）

3 指針に基づく施策の実施状況について

- 小ヶ谷会長 配布資料について、事務局から説明をお願いする。
- 三田村課長補佐 (資料2に基づき説明)
- 小ヶ谷会長 資料については、以前よりずっと見やすくなつたので、この形がよいと思うが、皆さんはいかがか。今の報告について質問はあるか。
- 大西委員 多文化共生プラザにおいて、入管庁や行政書士との連携した取組を実施したとあるが、どういうことなのか。
- 吉留担当課長 事前予約制で、出入国在留管理庁の横浜支局の職員が、毎月1回相談ブースを設けて、1回当たり3人まで相談を受けている。
- 大西委員 就学状況について調査したとあるが、住民票を残したまま転出している場合などは、どう処理しているか教えてほしい。
- 三田村課長補佐 訪問によって確認していると思う。
- 大西委員 住民登録を抹消するなどは可能か。
- 三田村課長補佐 実態調査をした上で可能である。
- 南委員 外国人市民代表者会議の募集資料を4万世帯に郵送する話があったが、役所から届くよくわからない郵便物がどういうふうに捉えられているのか、また、郵送していなかった時代はどのように広報していたのか。
- 三田村課長補佐 全戸配布していなかった時には、ホームページ、ポスター、市政だよりなどで広報していたが、応募者が集まらなかつた。現在は応募者数が3桁になるが、全戸配布を止めると2桁の定数ギリギリになつてしまつ状況だと思う。
- 南委員 このことに限らず、外国人への広報について、この先も予算を獲得して郵送を続けていくのもどうなのかと考えた。
- 本田副会長 外国人の場合は引っ越しも多く、郵便物が戻つてくる率も高いのか。
- 三田村課長補佐 最新のデータで送つてあるが、返戻率は高いと聞いている。
- 小ヶ谷会長 全戸配布について、予算が許される限りはいいのかと思いつつ、郵便料金も上がつてゐる。このあたりは、代表者会議の皆さんにアイデアをもらうのはどうか。
- 三田村課長補佐 募集のことを何で知つたか聞くと、手紙を見て初めて知つたという方ばかりである。ニュースレターや、SNSでの発信、年に1回年次報告が新聞掲載もされるが、他の行政情報と同様、もっと情報が欲しいという意見が多いので、いかに情報を効果的に届けるかは非常に難しいと思う。
- 大西委員 以前も聞いたことがあるが、代表者会議のメンバーはどのように選考するのか聞きたい。
- 三田村課長補佐 庁内に市民文化局長をトップとする選考委員会を設けて、各委員が応募書類を確認して委員会で選考していく。同一国から4人以上は入れられないなどの規定があり、また意欲の有無など、様々な観点で書類選考を行い、その後面接をして、事務局で決めていく。
- 大西委員 民主的な代表ではなくて、コミットしたい人、市政に关心があつて何かやりたい人ということであれば郵送ではない形もあり得ると思ったので質問した。その後の審議は、このあとすればいいかと思う。
- 小ヶ谷会長 外国人代表者会議は市内の外国人市民を代表するために作った制度だが、基本的には、自己推薦、自分で手を挙げるスタイルなので難しい。
- 三田村課長補佐 これまで全戸配布を続けてきたが、外国人の増加率がかなりの勢いで増してきていて、このままのやり方を継続していくのか庁内で議論があり、先生方や代表者などから、幅広く意見を伺い議論した上で、どうしていくのか決めていく必要があると思う。
- 小ヶ谷会長 孔委員は、どう思われるか。

- 孔委員 私も、手紙が来て、応募した。家には、市や県の新聞が届いているが、そうした行政からのお便りや募集を読む人であれば目を引くと思うが、今はQRコードで簡単に申し込める方がよい。申し込みではなくても、日本語を学ぶところや区役所などに、川崎市外国人市民代表者会議の情報をQRコード紹介できるようになれば、代表者会議に申し込みたい人達は、手紙が来なくてもQRコードで調べて申し込む場合もあると思う。
- 三田村課長補佐 郵送していなかった時は、区役所や市民館を中心に広報していたが、以前は区役所にコンタクトのある人しか来ないのでないかという声があつたり、今はほとんどフルタイムで働いているので、役所や市民館のコミュニティに入らない方も多くいる中で、どうやって情報を届けるかが本当に難しい。今後外国人市民が増えていくからこそ必要なのか、そうではないのかということについて検討する必要がある。
- 小ヶ谷会長 結果として効果が現れているわけだし、ポスターもあり、QRコードも付いている。本当に難しい。
- 本田副会長 外国人市民代表者会議の認知度はどうか。つまり、代表者になりたい人だけではなく、そういう団体があるということを知らせる意味で、情報の拡散もしている。よほど関心がないと、外国人市民代表者会議の存在を知らない可能性がある。そういう人こそ、本当は外国人市民代表者会議の存在が重要かもしれない。
- 孔委員 國際交流センターのイベントなどに参加して、ブースで紹介したりしている。幸区や国際交流センター、川崎市のインターナショナルのお祭りに参加した時、大勢人が来て、初めて知ったという人も多く、チラシをたくさん配った記憶がある。
- 本田副会長 けっこうイベントは重要である。
- 南委員 代表者の方から周知してもらうことはあるのか。
- 三田村課長補佐 募集が始まると、代表者の皆さんに伝えて、紹介してもらうことは行っている。募集の時期は限られていて、今年は9月1日から11月のオープン会議の後までを募集期間としている。募集期間内のイベントでは募集の案内をしているが、代表者会議を知った、面白いと思っても募集のタイミングでないと応募できないので、確かに周知は必要だ。
- 小ヶ谷会長 恐らく、周知と全戸配布の両方をやらないと確実に伝わらず、人をつかまえられない。個人的には、予算の確保が大丈夫であれば、あまり減らさない方がいいのではないかと思う。数がどんどん増えてどこまでもつかというところもあるが、必要なことである、と考えておいた方がよいのではないか。
- 大西委員 南委員の指摘は、郵便では情報が十分に行き渡らないので、違った形での発信を考えた方がよいのではないかということだったと思う。文京区では、子育て応援メールに登録すると、子育て情報が送られてくる。川崎市でも、例えば、ツイッターなどに外国人が登録して、社会保障や給付のことなどお得な情報が送られるような媒体に紐づけるというのが一つの方法で、郵送から切り替えるというやり方もあると思った。
- もう一つは本田委員の指摘で、今は、市政のあり方について、外国人の立場から何か述べたい資質、能力がある人達を選考しているけれど、そうでない人も入れた方がいいのではないかということ。より民主的にということであれば、代表者会議の5分の1、4分の1をくじ引きで選んで、熟慮してくださいというのはあり得るかと思ったが、事務局に多大な負担をかけることになる。
- 本田副会長 夏休みの宿題教室の話に関心がある。自分自身も外国につながる子どもの学習支援に何度か参加したことがあり、だいたいは、日本語は不自由でも学力は高い印象があったが、それ以外、どういう子どもが来るのか伺いたい。
- 三田村課長補佐 昨年度は、学校と日本語指導の協力者に周知し、保護者の方は相談もできるように

した。教育政策室の指導主事と行政書士の先生に来てもらい、保護者の相談室の形でもあったので、子どもと一緒に来た保護者は意識の高い方が多かったように見受けられた。

宿題教室は、少し前までは、ふれあい館と連携して、ふれあい館に通う子がボランティアさんと一緒にこちらに来て、夏休みの一日体験勉強会としてやったこともある。その時は、ふれあい館から事前情報をもらうなどのやり取りなど、ふれあい館の労力があまりにも多かったということもあり、昨年は私ども単独でやった。当課単独でやると、どうしても単発のイベントになってしまふ。川崎市では、地域の寺小屋を小学校で行っている。特に、外国につながる子どものボランティアがあつたり、川崎区で行っている外国につながる子どもの学習支援事業のお子さんとは違う子どもが来てくれることがあった。

○本田副会長 保護者が来るというのは、進学や就職に関する相談だったのか。

○三田村課長補佐 そのような保護者もいたし、とりあえず来て、子どもを置いて帰るつもりが、やはり相談しようと思い、残った方もいた。

○本田副会長 ありがとうございます。今、報告書の準備で、図書館の機能を考えている。図書館などに、自分の言語のテキストがあつて借りることができれば、一人でも勉強できるのではないか。日本人であれば、本屋さんに行けばいろいろと売っているが、外国人の子どもは、塾で行っている子どももいれば、日本語ボランティアのところで勉強する子どももいるだろうし、子どもによっては、人が集まるところに行きたくないから自分で勉強したい子どももいる。そうすると、図書館機能を考えるときに、一人で勉強できるテキストがあればよいかもしない。

○小ヶ谷会長 勉強の中身よりも、勉強する習慣、誰かがそばにいてくれた方が勉強が進むという子たちもターゲットかと思う。自学ができる子は、自宅で勉強ができると思う。

○本田副会長 本気でやる子どもはだいたいそうかもしれない。図書館の役割を考えた時に、参考書がどれくらいあるのかよくわからないが、調査をした時の記録を見たところ、外国語はあまりない。むしろ、国際交流センターにはかなりの冊数があり、図書館、日本語学習、学校の勉強、進学など、全て連動させることができると、いろいろな子ども達にリーチできるかもしれない。また、図書館の機能を考える時に、横の連携が弱い印象をもつた。

(図書館は) まちの情報が集約される場所であるが、例えば、日本語教室や子どもの学習支援など、そういった活動に関する情報が宣伝の貼り紙がされていると効果があるかもしれない。紙媒体は、けっこう重要だ。

○小ヶ谷会長 そのあたりを、報告書の中でも、提案のような形で書いていただけるとよい。

○本田副会長 やはり、情報系は重要である。ターゲットに情報を認知させるためには、色々な回路があり、SNSだったり、貼り紙をしたり、ネットワークもある。ネットワークは、国籍ごとに分かれている感じなのか。

○孔委員 そうでもないと思う。多文化共生ふれあい事業をやると、メンバーは全部違う国である。

○本田副会長 日本語教室に行ったりすると、本当にいろいろな人がいて面白い。共通の言語は日本語になるだろうが、文化を超えてコミュニケーションを取れる場所という点で、日本語教室はけっこう有効だったりする。

○小ヶ谷会長 次の議題で、総括ディスカッションもあるので、そこで色々と議論したい。

4 施策の検証・評価⑤：総括

○小ヶ谷会長 事務局が作成してくれた報告書のフォーマットをもとに、議論していきたい。

執筆される方は、このフォーマットに原稿を埋めていくという形で見ていただきながら、

取組状況については、これまでのヒアリング、先ほどの施策の実施状況を見ながら書いていただく。特にコメントと今後の課題については、その会議で出た議論をベースにした方がよいと思う。新しいアイデアを入れないということではないが、できるだけここでの議論に沿った形でのコメントがいい。書いた後に検討する会が2回開かれるので、書いたものを踏まえて議論できる時間が十分あると思うので、そのようなイメージをしていただければよい。

摘録順ではなく、指針の順ということになったので、医療・高齢者・図書館・多文化共生プラザの順に、分担を決めたところである。今回は、総括について議論する。

皆さんから、ご意見や会議を振り返ってのコメント、それぞれのセクションに関することなど、この時間を使ってディスカッションしたい。自由に意見を述べていただきたい。執筆されないお二人の委員からも、今期を振り返っての思い、ヒアリングを思い出しながらこのような議論があった、など、ご指摘いただけだと有難い。

先ほど、本田委員から、報告書の準備をしている図書館の話があったが。

○本田副会長 図書館そのものはもちろん重要だが、他の機関との連携が重要であるということで、自分で図書館のことだけを色々と調べたり、資料を見るだけでは限界があると感じたので、こういう形で、会議で話し合って、それをリンクしていくイメージで書けばいいのかと思った。

○小ヶ谷会長 リンクというのは。

○本田副会長 国際交流センターの状況を南委員に伺うなど、わからないことがたくさんあるので、教えていただきながら進めたい。今の段階では下書きみたいな形で、このような課題がありそうだというまとめ方になりそうである。試行錯誤で読み直しているところである。

○小ヶ谷会長 フォーマットの上部に、施策推進の基本方向が書いてあり、その②番が、まさに「市民館、国際交流センター、かわさき多文化共生プラザ、図書館等で、学習機会や資料の提供に努めます」と、連携に関わる項目があるので、それに沿って、これについてのコメントや、課題を挙げていくのがいい形ではないかと思う。

○本田副会長 手元にある資料に基づいて書いても、知らないことがたくさんあり、現場ではうまくいっていないと書いたとしても、実際には現場では一生懸命やっているので、書き方は配慮しなければならない。こちらに南委員がいるので、色々教えてほしい。

○小ヶ谷会長 今の時点で質問があれば、いい機会だと思う。

○南委員 本の貸し出しは行っていない。図書室に関しては、指定管理でやっている部分で、リスト化を一生懸命やっているが追いついていない。学校の図書室のように、本の後ろにカードが入っていて、カードに判を押すようなレベルであればできるのではないか。ただし、図書に詳しい人に聞くと本が返却されない、紛失してしまうということもあり、図書館は、ある程度リスクを背負って貸し出しているということなので、今、内部で検討している。

○小ヶ谷会長 大切なものとそうでないものに分ける必要があるということか。

○南委員 禁帯出のものだけをカウンター近くのよく見えるところに置いて、それ以外は持っていくこともありますと割り切れば、もっとオープンな施設になれるのではないかというようなことを議論している。

○本田副会長 1万9千冊のリスト化や、データベース化はすごく時間がかかる。貸出の図書カードを使って貸し出しすることはできるだろうが、バーコードを読んで記録を残すというのは、まずデータベース化しなければならないのではないか。1万9千冊はかなりの量だし、システム構築も大変だろうが、自分達で新しい本を購入するより、他の機関と連携した方がよいかもしれない。国際交流センターに行けば、図書だけでなく、実際に人もいるので、行くことの

意味はある。

- 南委員 以前も発言したが、中原図書館で、図書館にはないけれど、国際交流センターに行けばあると言つてもらえるぐらいのことは、何とかしてできないかと思っている。
- 本田副会長 やはり人が動く必要があるだろう。機関ごとに役割があるわけだから、人が点々と移動し、色々なところに行くことができると、そこで情報も動いてくる。
- 小ヶ谷会長 そのあたりが、課題としては明確で、一つの軸になりそうである。
- 南委員 一つこれでやると決めれば、どちらかに振れることができ、現状よりはいい状態を作ることはできると思っている。
- 小ヶ谷会長 報告書に課題として挙げ、提案すればよいのではないか。
- 本田副会長 図書館は、情報が集積する場所であり、かつ地域の情報を市民に拡散する場所でもあるということで、情報の拠点であり、同時に人が集まる場所なので、ネットワークの拠点でもある。無料で出入りができるので、外国人市民にとっても入りやすい空間になっていればよいが、実態としてはそうでもないようだ。
- 小ヶ谷会長 具体的な提案ができる報告書はよいと思うので、是非。
- 本田副会長 分量は決まっているか。
- 三田村課長補佐 特に決めていない。
- 小ヶ谷会長 実態調査報告書のようなかつちりとしたものではなく、この場で出たことに対してのコメントがよいのでは。
- 本田副会長 過去の報告書を拝見したら、割と箇条書きのような感じであった。
- 小ヶ谷会長 中野会長の時はそうであった。
- 南委員 図書館に関してだが、川崎区の図書館の様子も見に行った。情報がよくまとまっていて図書館利用者に向けて、来た人に持つていってもらいたいという期待感、情報が欲しい人が寄ってくる、情報発信の場所として、図書館も努力していると感じた。中原の時はあまり思わなかったが、川崎区だけあって、外国の方向けの情報がまとまっていた。
- 小ヶ谷会長 他の項目の施策の検証に戻る。医療、高齢者、多文化共生プラザがあるが、振り返りや、話題提供などあれば。
- 大西委員 話題提供ではないが、書き方としては、摘録の中から抜き出して書いて、皆さんに助言してもらうような話だったので、下書きしたものをメールで送り、漏れている箇所を追加してもらい、会議の場で決める感じで進めればよいか。リアクションがなかった時は、原案がそのまま通るような感じになるが、それでよいか。
- 小ヶ谷会長 メールに答えて書き足す余裕があるかわからないので、できれば、会議の1回目くらいの時に口頭で調整していくのがよいのではないか、と個人的には思う。
- 大西委員 私が書き足す余裕がないかも知れないので、そのような形でお願いしたいと思っている。
- 小ヶ谷会長 送っていただくのはいいと思う。
- 大西委員 グーグルドキュメントなどで共有して、誰もが書き足せるような形がいいと思ったが、それは可能なのか。
- 小ヶ谷会長 ドライブに上げるとなると、市役所の文書なので、セキュリティ的に厳しくなるのか。
- 三田村課長補佐 皆さんで作業するドライブはおそらくないと思うので、申し訳ないが、大西委員から届いた原稿を全員に送るので、皆さんでも共有し、修正の期限を設け、皆さんから上がったものを次のタイミングで再送するような形でお願いしたい。
- 大西委員 では、メール形式でお送りする。すごく自信がないので、皆さんの御協力をお願いしたい。
- 小ヶ谷会長 多文化共生プラザについて、摘録を読み直して色々と書きたいと思っている。ちょうどオープン1周年のイベント案内のようなものをもらい、SNSで見て、場として使いたい

という話が先ほども出たが、そのような使い方を目指していることがわかった。入管庁は、川崎市とは割と良好な関係を維持している、ということになるのか。

○吉留担当課長 入管庁とは、相談対応で御協力いただいている。

○小ヶ谷会長 1回につき3人の相談というのは、何か時間的な理由などがあるのか。

○吉留担当課長 午後1時から午後4時までという枠が決まっている中で、一人あたり1時間程度という、その枠で3人程度としている。

○小ヶ谷会長 どういう相談があったかというのは、プラザとして共有されているか。

○吉留担当課長 共有している。

○小ヶ谷会長 やはり、入管庁に相談するのは在留資格のことだと思うが。

○吉留担当課長 家族の相談が多く、例えば、家族が日本人の配偶者と別れたいが、在留資格がどうなるかというような、深刻な在留資格の相談であったり、お子さんの、今後の進学、就職にあたっての在留資格をどうしたらよいかというような、そのような相談が多い。

○小ヶ谷会長 入管庁との関係性は良好として、入管の人に来てもらった甲斐があるというか、効果的だと思われるか。

○吉留担当課長 効果的だと思う。やはり川崎区は外国人が多いこともあるが、複雑な家庭環境の方も多く、1回で終わらず何回も相談する方もいる。また、入管庁の横浜支局の職員も真摯に相談を受けてくれ、相談者からは方向性が見えるという声も聞いている。

○小ヶ谷会長 なるほど。確かに入管の方に直接相談できるのは、相談者からすると安心という面はある。入管の人に言われたから進める、ということもできる。入管にとっても、現状の多様さというのはわかるのではないかと思う。

次に、高齢者の部分になるが、非常に多くの方にヒアリングを行い、メンバーの多さから多くのセクションが関わっていることがよくわかったと思うが、その時のこと、シェアしたいとか、思い出しているものがあれば。

外国人市民の高齢化というのも、新規の人達が増えると同時に、やはり、特に川崎は長く住んでいる方が多いので、高齢化というのは重要な課題になると思う。私が所属している、国際ジェンダー学会では、在日コリアンと在日フィリピン、タイの移住女性たち、それぞれの取組、課題などを考えるシンポジウムを、今度フェリス女学院大学で行う。ご案内したいと思っている。現場の話や、ネットワークの話、移住女性たちがどういうふうに自分達自身で自分達の高齢化について備えようとしているのか、そういう話を聞かせてもらおうと思っていて、それが課題だと思う。

施設の検証・評価⑤総括について、事務局にも御尽力いただき、とても実のあるヒアリングを4回実施することができたが、それらを横断して思うこと、考えたこと、あとは課題など、共通していなくても複数のものにまたがるという形でもいいが、今日少し意見を聞かせていただければと思う。孔委員、南委員は執筆されないので、この期を振り返って思ったことがあれば、参考までに聞かせていただけるとよいかと思う。

○孔委員 ヒアリングで福祉関係の方の話を聞き、色々な事例はあるが、私は韓国出身なので、やはりオールドカマーとニューカマーの、今後の福祉関係とかすごく変わってくるのではないかと思う。私の世代と少し上の世代の場合は、同じくここに住んではいるが、話をした時に少しあり合わない。状況が違うからかわからないが、福祉関係についても話をしていたら、どちらかというと、オールドカマーの場合は全部やってもらいたいという気持ちが強い。今後、福祉の利用者とか、そのようなことも変わってくるのではないかと思う。

あと、もう一つは、日本の場合、行政が色々福祉関係で対応したり、その家族などに対応してくれるが、手続きの面では、日本の方も同じだと思うが、いざ病院に入院したり、老人ホー

ムを利用するなど、書類関係のところで、自分が何が必要か、ここから聞けば教えてくれるけど、ここを準備しておいた方がいいとか、行政の方からはあまりないというのが共通のところで話が出ている。情報にあたる部分かと思うが、課題に出てくる感じがした。

○小ヶ谷会長 オールドカマー、ニューカマーと言われた人達もどんどん長期化すると、だんだん層も変わってくる。しかし抱えている課題、直近の課題のようなものは共通していると思う。手続きでよくわからないなどあつたり、確かに重要なご指摘だと思う。

他に、何か振り返りで思うところや、こういう課題があるというような意見はないか。

○南委員 私どもに、年金事務所がやってきて、年金制度を知ってもらいたい、お金も払ってもらいたい、また、このような権利があることもお届けしたいということで、本当に危機意識をもってやってきて、どうしたらしいかという相談があった。

それぞれのジャンルで外国の方が増えてきていて、普通に待っているだけではうまくいかないことに気づき、特に権利義務に大いに関係があるようなところでは危機感がものすごいあると思うが、そういうところに気づかせたり働きかけるようなことを、私どものようなところがもっとやっていかなければいけないと改めて感じている。

また、高齢者の関係になるが、日本人であっても、施設に入ったりすると、それまでの暮らしを全然違うことに合わせなければならないのは辛いと思うが、外国人だともっとかい離があるわけで、今後、外国人の高齢者が増えていく。そこに着眼して、そういうサービスを展開することで、事業を拡大していく事業者が出てきてもおかしくない。そういうことが求められる時代だということを、もっと知らせていかなければいけないのかと思う。

○小ヶ谷会長 状況の変化みたいなことは、どんな立場でも問題意識というのはあったとしても、どう形にするか、動いていくかというところは、誰かがつながないと難しい。

○大西委員 情報が届いていないというのがずっと課題としてあるけれども、前回の報告書にもあったという形で、今回も議題になったというように、「はじめに」を書くといいのかと思った。なぜかというと、前回の報告書でも、10年前から同じことがずっと言わわれていると書いてあつたと思うので、それに続く形で、報告書の第2期と第3期の連続性というか、第2期から引き継いでおり、問題意識を私達もこの場で情報の届け方について議論したという感じになるので、「はじめに」で書いた方がよいと思った。

○小ヶ谷会長 ありがとうございます。この期が独立しているということではないので、それは大事な視点だと思う。

○本田副会長 情報の周知は難しい。10年前より複雑になっている。情報が少なくなったからではなく、情報が肥大化しているからだ。情報を発信する方法が、かなり多様化していて、それが錯そうしていて、必要な情報がよくわからなくなってきた状況である。どうやってターゲットにリーチするかは、情報を拡散するだけでは限界があるので、工夫が必要である。

情報がたくさんあって、インターネットで検索すれば出てくるが、最終的にはネットワークではないだろうか。人が集まる場所の情報をどうやって伝達するのか。

○小ヶ谷会長 古くて新しい課題であるが、次のブレークスルーを考えなければいけないタイミングもあると思う。もしかしたら次の期の重要な課題にもなるかもしれない。次回もまた報告書の原案を持ちながら、議論できればと思う。多様なたくさんの議論をいただきありがとうございました。

5 その他

地域日本語教育の推進に関する部会からの報告

- 吉留担当課長 (資料4を基に説明)
- 大西委員 キャリアアップのための日本語講座について、対象者（ターゲット層）を、永住者・定住者・家族滞在・労働者（工場・商店・飲食店）・技能実習生になっていて、労働者は労働資格、在留資格としているというのが興味深い。中長期に滞在している人プラス会社に雇われている人というくくりなのか、特に考えていないのか、対象者の設定理由を知りたい。
- 吉留担当課長 ターゲット層については、時間をかけて意見をいただいた。もっと絞った方がよいのではないか、広げ過ぎると何ができるのか見えず申し込みにくくなるので、例えば介護とか業種別に募集した方がよいのではないかという意見が当初あった。しかし、制度ががっちり決まっている介護などへの参入は難しいので、業種別で絞らず、今回は初めてのキャリアアップ支援ということなので、労働者の業種・業態を広くし、今後、日本で長く生活する中で仕事をしていくためには、知識があった方が就労の可能性が広がるのではないかと考え、家族滞在、定住者など対象を広げた。
- 大西委員 議論があったというのは、とても興味深いと思った。在留資格によって、入管で入れる時にチェックしているだろうから、どのくらい日本語ができるかということは、それを意識した上で行うのかというのは面白いと思う。
- 小ヶ谷会長 ありがとうございました。他はどうか。
- 本田副会長 日本語教育と図書館のつながりというのはどうなのか。日本語教育全般に関して、あまり触れられていないようである。「日本語をはじめとする学習支援等の充実に努めます」と図書館の報告で書いてある。図書館の有効活用について議論の中で触れられていたか教えていただきたい。
- 吉留担当課長 現状としては、まだ図書館までは触れられていない状況である。
- 本田副会長 自分の担当の部分で、図書館の報告書に関しては、あまり触れられていないので、どのように書けばいいかと思って伺った。
- 三田村課長補佐 次回（第3回）は10月10日（金）、本日配った資料3をワード形式で改めて送るの、内容を入れていただき、それについて議論していただきたい。
- 第4回目を11月中旬から12月上旬、第5回目を1月下旬から2月上旬を予定しているので、早めに日程調整させていただく。3回目と4回目はドラフト確認、5回目は全て文章が入った上での最終確認というような作業になるかと思う。

6 閉会

以上